H27年度　学術部 精神障害委員会研修会報告

テーマ ： 『精神科における地域生活支援　～作業療法士に求められること～』

日　時 ： 平成28年2月21日（日）

場　所 ： 帝京平成大学（幕張キャンパス）

講　師 ： 香山 明美 先生

参加者 ： 28名

　H27年度・神障害委員会研修会は、長く精神障害領域の臨床現場で活躍されている香山明美先生を講師に招いての開催となりました。

　講義の主な内容は『精神科における急性期治療』『退院後の地域生活支援』において作業療法士がどのような役割を求められているのかという部分に力点が置かれており、これから取り組んでいくべき道筋が示されたように思います。

　今回の研修会では、実際に訪問看護などの地域生活支援に関わっている方・院内での作業療法業務に携わっている方・これから訪問の業務に取りかかってみたいと考えている方など、様々なカテゴリからの参加がありました。そのような中で行われたグループワークでは実際に行われている訪問業務についての話題の他、「長期入院者に対する退院促進」「病院から地域への足がかりをどうするか」「ピアサポートの可能性は？」といった内容が各グループで挙がり、参加者の皆さんが現状に対して思うところやそれぞれの課題が現れていました。

長期入院への取り組みは精神科医療・精神科作業療法の喫緊の課題です。加えて、急性期の対象者をどのようにして地域生活へつないでいくかという視点もまた非常に重要であると思われます。「精神科医療に携わる作業療法士はいずれ外（地域）に目を向けていく必要がある」という講義の中での言葉は、普段取り組んでいる作業療法の中で常に意識しなければならないと感じています。



